



部落差別の解消に関する取組

宍粟市における、部落差別の解消に向けた取組について紹介します。
今後も講演会やシンポジウムなど、差別解消に向けたさまざまな取組を行っていきます。

2019年10月26日(土)

人権シンポジウム「ありのままの生き方を問う～恥ずかしいのはどっちだ～」

登壇者：坂田愛梨さん、瑠梨さん、かおりさん(人権テイクルート)

江嶋修作さん(社会学者、解放社会学研究所所長)

●坂田愛梨さん、瑠梨さん、かおりさんを招き、「ありのままの生き方」について考える人権シンポジウムを開催しました。進行役として、部落差別問題の解消に長年取り組まれている、江嶋修作さんにも登壇いただきました。

「差別を笑い飛ばせるような明るさ、力強さが人権の学習には必要」(愛梨さん)「差別について子どもだから教えても分からないと大人が決めつけず、ちゃんと教えれば子どもは絶対に理解できる」(瑠梨さん)という、差別を生み出さない社会に対する思いをお話しいただきました。



2019年7月26日(金)

宍粟市職員研修「部落差別から人権を考える～すべては知ることから始まる～」

講師：坂田かおりさん(部落解放同盟鳥取県連合会女性部部長、人権テイクルート)



●全国各地で母娘での講演が行われている「坂田一家」のお母さん、坂田かおりさんを講師に招き、市職員を対象にした研修を実施しました。自身の体験を基にした、「差別をする側こそが恥ずかしい」「どんな差別もまず知ることから始まる」といった、差別との向き合い方についてお話しいただきました。受講した職員からは「出会ってお互いを知ることが個々を認める社会へとつながると思った」「仕事をする上でも、親としても人としてもまっすぐに生きていきたい」といった意見がありました。



「恥ずかしいのはどっちだ」とは、差別「される」側ではなく「する」側に問題があるということ。差別には決して肯定する理由や根拠などはありません。